

第7回新しい公共島根県運営委員会 議事概要

日 時 平成24年7月27日(金)
13:15～15:30
場 所 県職員会館多目的ホール

■開会

■委員長挨拶

- ・松江市で実施されている市民活動実態調査に関わっている。アンケートの中で「何で市民活動を始めようと思ったんですか」「実際に市民活動をやったことで、どんなことを得られましたか」という質問項目を設けている。選択肢としては、「人の役に立ちたい」「自分が楽しみたい」などを設定する案を作っていたが、市民活動センター委員の方から、「そのようなものばかりではない、自分たちはやむにやまれず市民活動をやらなければならない」という意見が出された。
- ・このような視点はとても重要な事柄であり、この委員会の中でも再確認しながらやっていきたい。

■委員の交代

- ・新委員の紹介

山陰合同銀行地域振興グループ長 西郷克典 様

■協議事項1について

「寄附等に関する事業について」

- ・事務局より説明
- ・了承

<主な意見>

- ・グッズの作成とあるが、具体的に教えて欲しい。
- ・ロゴマーク及びキャッチフレーズの使用手続きとして届け出が必要とした趣旨について。
- ・キャンペーンの中でしまね社会貢献基金を活用するということは非常にいいことだと思うし、成果がわかりやすいと思う。ただ一方では、しまね社会貢献基金を通じて寄附を受けるためには、登録団体となる必要がある。登録せず団体独自に寄附を集めるということもあると思うがいかがか。

- ・キャンペーンに参加した団体が、基金を通さず、直接寄附者からの寄附を受けることを妨げるものではないですね。
- ・とりあえず勉強会に出てみたいという団体は拒否されるのか。
- ・寄附付き商品というのは興味深い取り組みだと思う。
- ・しまね社会貢献基金のパンフレットについて、基金を通じて団体に寄附と書かれているが、単純に直接団体に寄附すれば良いのではないかと感じてしまう。なぜ基金を通すと良いのか、分かりやすく書いておく必要があると思う。
- ・震災の義援金をみればわかるが、寄附をする気持ちというのはみなさん持っている。ただ、具体的にどのようなことに使われるのか、その効果という部分が分かりやすくなっている必要があると思う。
- ・寄附を求める団体が増えるということは重要。それから、寄附をする側へのアピールも同様に重要だと思う。潜在的な寄附しても良いという気持ちをどう結びつけていくのかというのが課題。寄附付き商品を通じて一つの動きをつくっていくということは良いと思う。
- ・震災の義援金について、確かに寄附が金額が集まった。しかし一方でどのような使われ方をするのかわからないという声もあった。震災ということに共感したということではないか。しまね社会貢献基金についても同様、何に使われるか明確でないが、島根愛とか地元愛に共感して寄附ということもあるのではないかと。使い方など明確になっているほうが良いとは思う。
- ・しまね社会貢献基金に寄附することが島根愛にどうつながっているのかがわかるようになると良いと思う。呼びかけ方として、「地域をもっとよくしたい、そんな活動に取り組む団体に寄附」では直接団体に寄附すれば良いのではという考えも出てくる。「あなたの島根愛をください」という表現も良いと思う。

■報告事項について

「各事業の進捗状況について」

- ・事務局より説明

<主な意見>

(益田市モデル事業)

- ・益田市のモデル事業について、地域と団体のマッチングを行っているということだが、

具体的に成果が出ているのか。

- ・ワンコインセミナーというのはどんなセミナーなのか。

(浜田市モデル事業)

- ・事業継続のためには収入が必要だと思われるが、その見込みはあるか。

(松江市モデル事業)

- ・対象地域が変わっているが具体的に説明を
- ・雑賀地区ではうまく行かなかった理由は
- ・公民館や町内会にはアプローチをされたか

(松江市震災モデル事業)

- ・福島のローカル新聞を取り寄せて交流スペースを設けているとすることだが、どのような状況か教えて欲しい。

(モデル事業全般)

- ・マルチステークホルダーという形での事業実施形態についてどのような感想を持っているか。

(ソフトウェア開発)

- ・NPO支援データベースはWEBで誰でも見ることができるのか。

(その他)

- ・過去の協働事業報告書のホームページ掲載をお願いしたい。
- ・私の団体内部の会議でいきいき活動や新しい公共に関する話をしても、なかなか実感をもてないという状況がある。キャンペーン、フェスタなどのちらしは、皆さんが参加してみたいと思えるような工夫をして欲しい。
- ・寄附を進めることは大変いいことだし、どんどんやっついていかないといけないことだが、あまり寄附のことが前面に出過ぎると引いてしまうので、バランス良く進める必要がある。
- ・新しい公共支援事業の報告会は予定されているか。